

城山小学校 第861回 平和祈念式 令和5年4月10日



「平和は城山から」という言葉は、長崎市内すべての小学校の人が「そうだね。」と感じる言葉です。今から78年前の8月9日、午前11時2分に、一瞬で町を吹き飛ばして破壊し、何万人という人の命を奪ってしまう原子爆弾が松山町の上空で爆発しました。城山小学校でも1,400名以上の方が亡くなられ、その頃、最新の3階建ての校舎もペしゃんこになって壊れてしまいました。新任式のあいさつでお話ししましたが、35年前に校長先生が城山小学校に勤めていた頃、原子爆弾の被害に遭いながらもかろうじて生き残った先生や、その頃、城山小学校に通っていた方々のお話をたくさん聞くことができました。その方々は、その時のつらい気持ちを思い出し、お話の最後は涙を流し、声を詰まらせながら、同じお願いをされていたことを覚えています。そのお願いとは、大きくは次の3つでした。

- 二度と悲惨な戦争を起こしてはならない。多くの人の命を一瞬で奪ってしまう原子爆弾のような核兵器を二度と使ってはならない。
- そのために、原子爆弾により大きな被害を受けたことを忘れず、平和の大切さを城山小学校から広げていってほしい。
- 平和な世の中になるよう、思いやりをもって行動できる城山小学校の子供となってほしい。

このような願いを受けて、今日で861回目となる平和祈念式が引き継がれて行われているのです。少年平和像は、この願いを受けて校門の前に立っています。平和祈念式では、この少年平和像に深くお辞儀をしますが、これは、「今後、原子爆弾のような核兵器を使わせません」「自分たちも平和になるよう行動します」という誓いの気持ちの表れです。原爆殉難者の碑に向かって目をつぶり、首から上を前に倒して行う黙祷は、亡くなられた多くの城山小学校の先生方や子どもたちに対して、「安らかにお眠りください」という気持ちを込めて行うものです。

また、この平和祈念式では、「子らのみ魂たまよ」という歌を歌います。この歌は、城山小学校で平和を願い、平和を守ることを誓う気持ちを込めて、平和祈念式が始まってから歌い継がれてきました。2年生から6年生の皆さんは、先輩方の思いを受け継ぎ、「平和は城山から」と、心を込めて歌いましょう。入学したばかりの1年生に、その願いがこもった歌を教えてあげましょう。

平和祈念式の後半は、各学年に分かれて、平和遺構や被爆遺構の前で、亡くなられた方のために花を捧げる「献花」を行います。城山小学校から平和を発信していくには、みなさんが友達と仲良く生活する姿を行動として見せることが何よりも大切だと、校長先生は考えています。友達のよいところや自分と違ったところを認め、考えが違っても、どのようにしたら互いに分かり合って仲良く活動することにつながっていくのか、を「献花」するときに考えてほしいと願っています。

今年度最初の平和祈念式です。今日、みなさんが感じたこと、考えたことをもとに、みなさん一人一人が「平和は城山から」という言葉を自分のこととしてとらえて、これからの生活につなげていきたいと思います。